杉並区議会議長　井口　かづ子殿　　　　　　　　　　　　　　2020年6月15日

佐々木千夏議員6月2日の一般質問「区の平和教育」発言は、関東大震災時や、日本の敗戦の真実を歪める歴史捏造教育の勧めであるから、区議会議事録からの削除を要請する陳情

陳情の趣旨

　　１）杉並区議会は、誤った歴史認識、特に日韓の歴史捏造発言が杉並の教育に与

　　　　える影響の問題性を重く受け止め、区議会の総意をもって、佐々木千夏区議

　　　　に対し、全く誤った歴史認識の訂正と、発言の議事録削除を求めてください。

理由

○昨年9月、佐々木区議は井口議長より、厳重注意を受けたばかりです。しかし今回も、杉並の平和教育について、「日本は侵略戦争をしていない」、「日韓併合とは、韓国側が救済を求めてきたもの」、「創氏改名は朝鮮人みずから求めてきた」など全く誤った、歴史捏造の発言をしています。この議会での発言は杉並の子どもたちへの歴史認識に影響を与えかねないものです。

○また、「関東大震災時、神奈川警察署長への感謝状」の発言は、関東大震災時の日本

　側の朝鮮人虐殺の事実を不問にするものです。

　「新修　杉並区史・下巻」（杉並区役所編集・発行：昭和57年10月1日）には

関東大震災の朝鮮人虐殺に関する杉並の実話が詳しく記録されています。

　下高井戸で農業を営んでいた江渡狄嶺（えとてきれい）氏の日記には震災時に『「朝鮮人が毒を井中に投じ、諸方に放火し、爆弾で建築物を破壊し、さらに、暴動を起こして掠奪不義を敢行しつつあり」とのデマがあり、恐怖のあまり人々は、棒、鳶口、竹槍、刀、鉄砲、思い思いに武装し終夜大声で叫びながら走り回っていた。烏山では田畝中に朝鮮人が十四五人も、重軽傷を負はされて、うめいて居る・・』という記述がある。

江渡さんは、追われている若い朝鮮人を三人、自宅に3か月も保護しています。

一般に思われている下町にではなく、この杉並にも朝鮮人虐殺の事件があったことを思うとき、　佐々木議員発言は揺るがしにできないことだと考え、陳情するに至りました。